

「幼保小の架け橋プログラム」

実践の手引き



令和8年4月

やまなし幼児教育センター



目 次

1. 幼保小の架け橋プログラムについて 1
 - (1) 幼児期及び架け橋期教育の重要性
 - (2) 幼保小の架け橋プログラムとは

2. 山梨県の方針 3

3. 架け橋プログラムの進め方のポイント 4
 - (1) 体制づくり
 - (2) 「子供をまんなかにして互いの教育内容を話し合う」取組

4. 具体的な取組 11
 - (1) 「幼保小の架け橋プログラム」実践事例
 - (2) 「幼保小の架け橋期のカリキュラム」実践事例

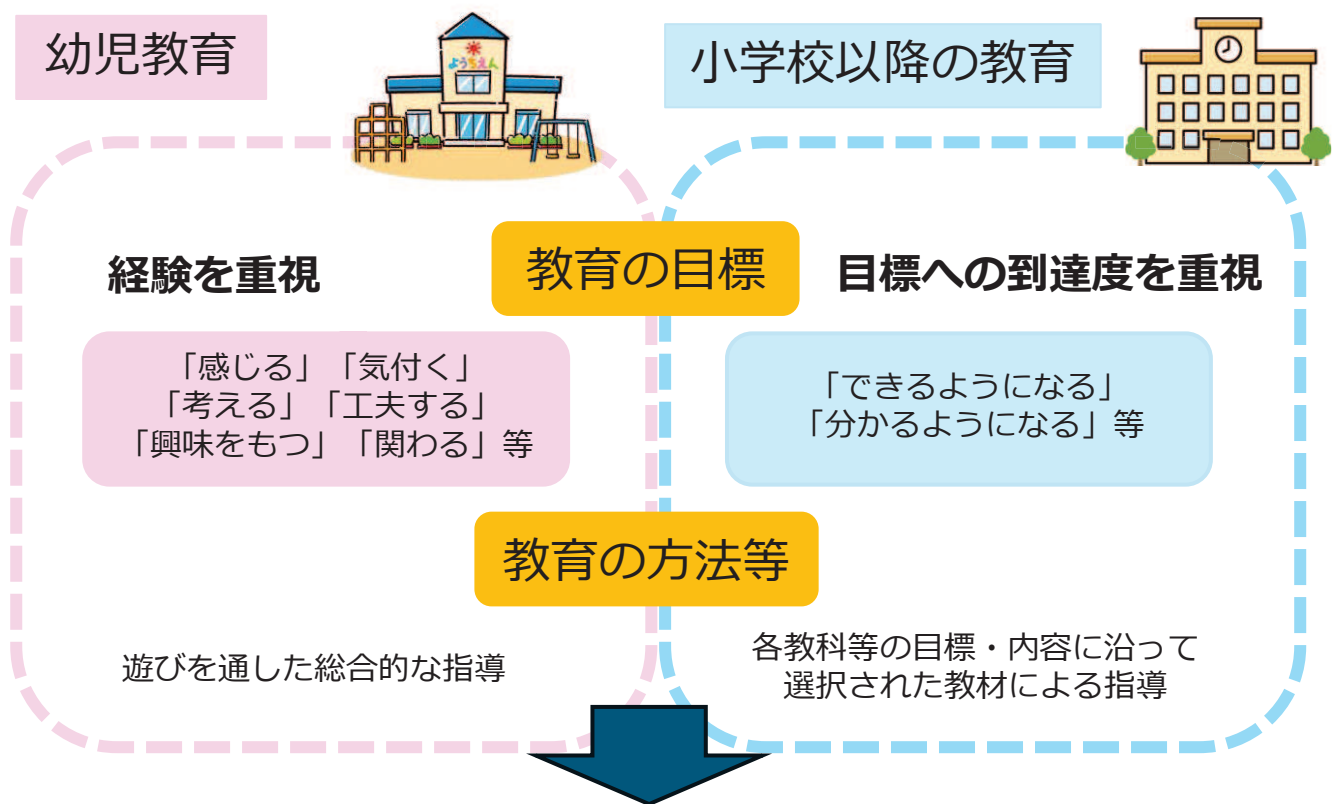


1. 幼保小の架け橋プログラムについて

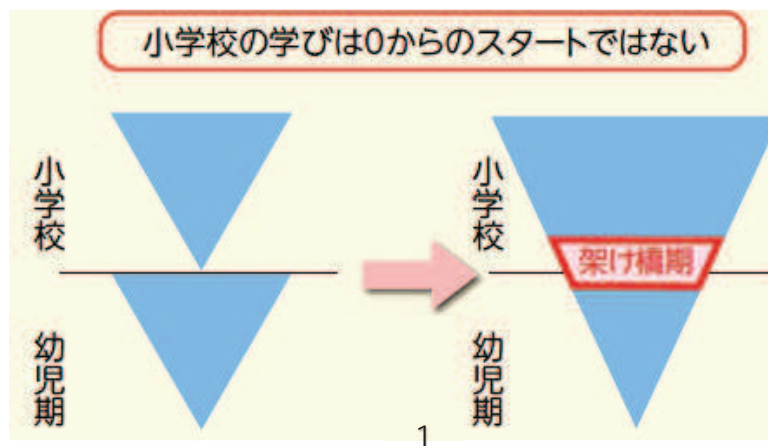
(1) 幼児期及び架け橋期の教育の重要性

幼児教育と小学校教育には、他の学校段階間の接続に比べて、指導方法など様々な違いがあります。

学びや生活の違いが大きいと不安や戸惑いを感じて、自分らしさや自分のもっている力を発揮することができなくなってしまうことがあります。幼児教育での学びが活かされるような工夫が必要です。



幼児教育と小学校教育の連続性・一貫性が重要



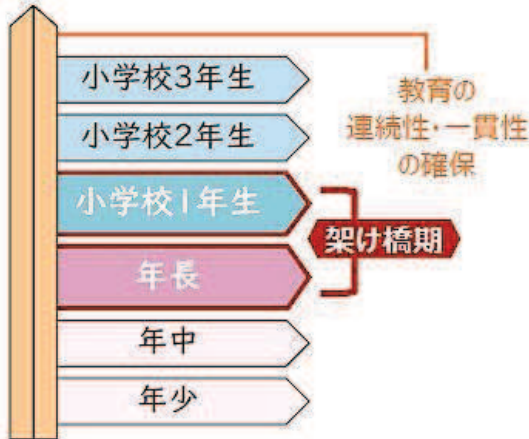
(2) 幼保小の架け橋プログラムについて

これまで、幼稚園・保育所・認定こども園等における学びや育ちを基盤に、小学校で子供たちが主体的に自己を発揮できるように、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、時間割の弾力的な運用などさまざまな取組が行われてきました。しかし、まだまだ十分な状況ではありません。

そこで、文部科学省は令和4年3月、「幼保小の架け橋プログラムの実施にむけての手引き（初版）」（https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_3.pdf）を示し、更なる幼児教育と小学校教育の円滑な接続の取組を進めています。

「幼保小の架け橋プログラム」とは

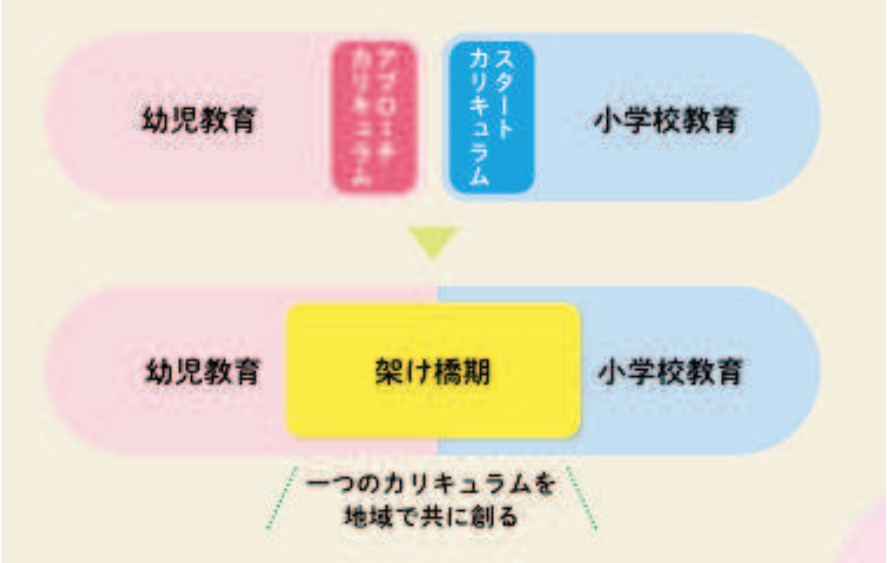
幼保小の架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）の教育の充実を図るため、0歳から18歳の発達や学びの連続性を踏まえ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携・協働して、カリキュラム・教育方法の充実・改善を促進し、域内の全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指す取組。



参照：文部科学省資料

「架け橋期のカリキュラム」とは

幼児教育と小学校教育の関係者が、共通の視点を持ちながら、相互の教育内容や教育方法の充実を図るため、協働して作成する架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）のカリキュラム。



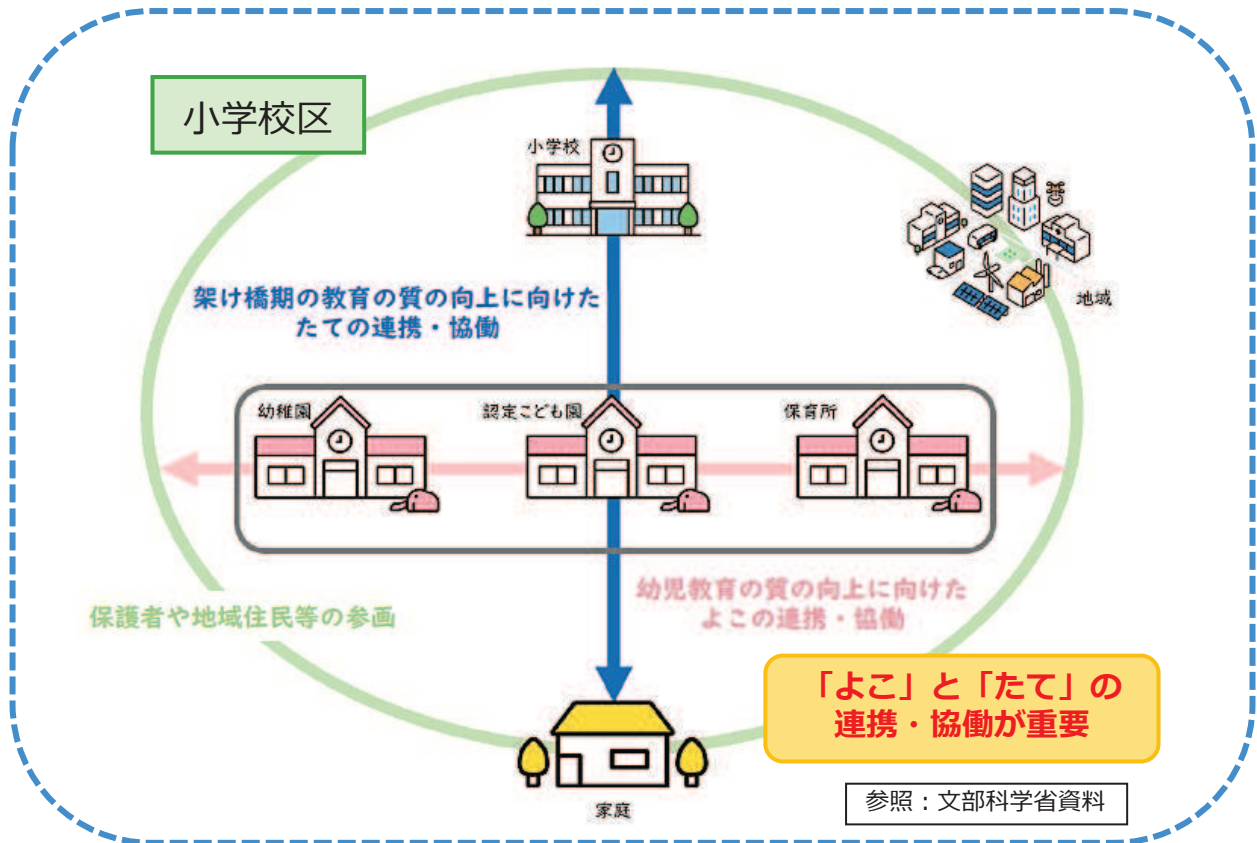
就学前後のアプローチカリキュラム（5歳児カリキュラム）やスタートカリキュラムをそれぞれ考えていくのではなく、2年間の「学びのつながり」を意識しながら、関係者で一緒に考えていきます。

参照：啓林館「幼保小をつなぐ架け橋プログラムハンドブック」

2. 山梨県の方針

小学校には施設類型を問わず、様々な幼児教育施設から子供が入学します。すべての子供に格差なく学びや生活の基盤を育むために、地域全体で幼児期及び架け橋期の教育の質の向上について考えていくことが大切です。

本県では、県、各教育事務所、各市町村が一体となり、円滑な幼保小連携・接続の取組を進めています。



【市町村】教育委員会
子育て支援関係課

【地域】教育事務所

【県】義務教育課（やまなし幼児教育センター）
子育て・次世代サポート課

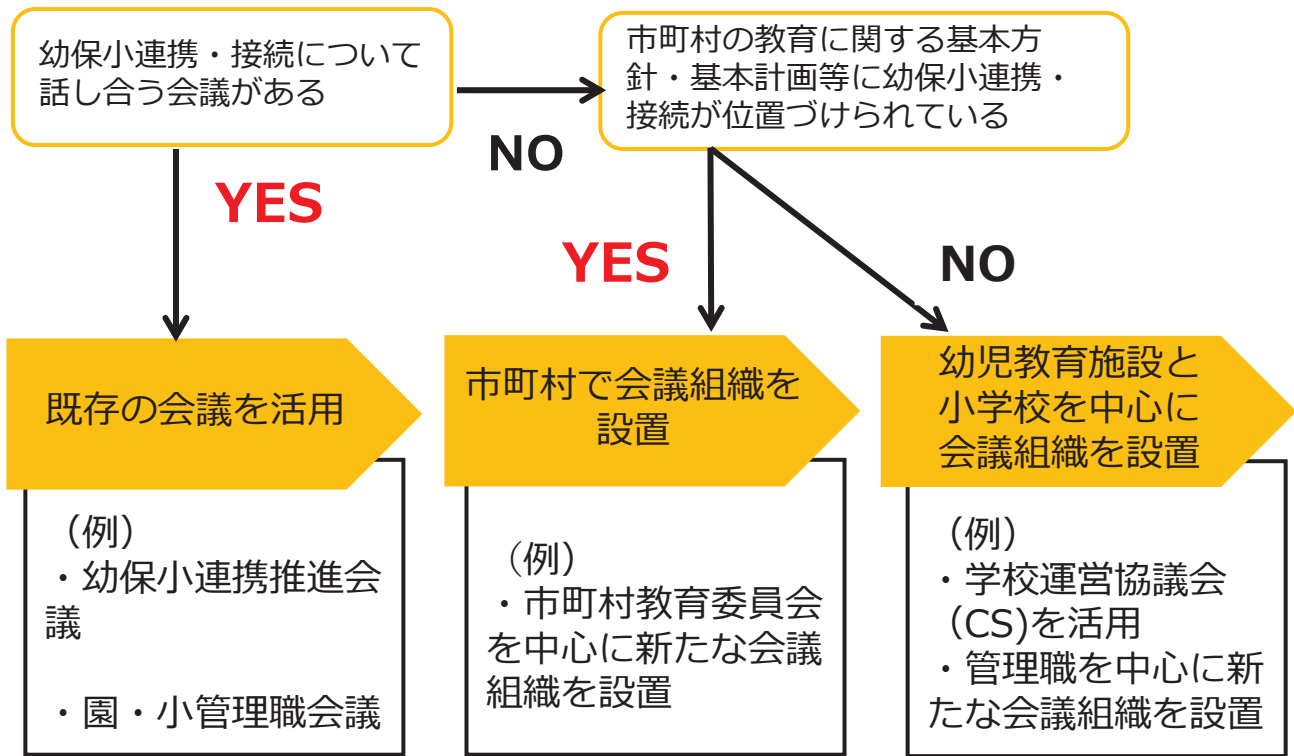
地域で一体となって取り組むための行政の役割が重要

3. 幼保小の架け橋プログラムの進め方のポイント

(1) 体制づくり

幼保小の架け橋プログラムを始めるに当たって、その体制を必ずしも一から構築しなければならないことはありません。例えば既存の組織を活用し、小学校区にある幼児教育施設の管理職・担当者を構成員として位置づけ、取組をスタートすることも考えられます。

各地域におけるこれまでの取組を最大限に生かし、負担軽減を図りながら進めることが大切です。



参照:北海道教育庁幼児教育推進センター
北海道版幼児教育スタートプログラム

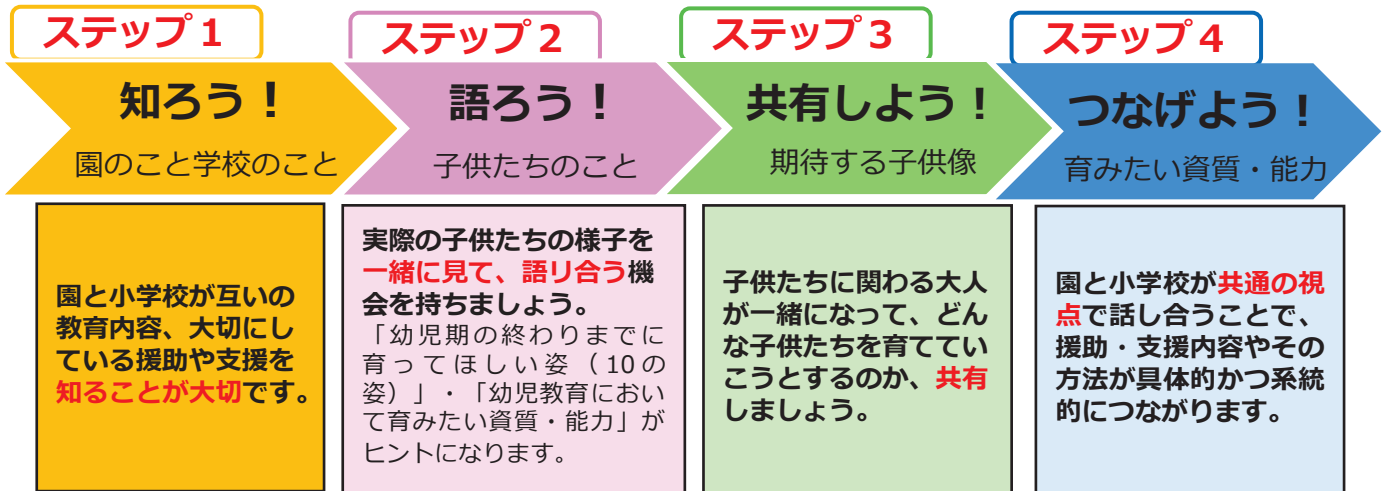
*体制づくりについては一例に過ぎないため、この限りではありません。



(2) 「子供をまんなかにして 互いの教育内容を話し合う」取組



地域の実態に合わせ、4つのステップを活用すると進めやすいでしょう。



「相互参観」で子供の姿を見合いましょう。参観の視点を明確にすることで、「学びをつなげる」ヒントを得ることができます。

【例】参観の視点

- **子供の姿**
 - ・どのようなことに夢中になっているか。
 - ・集中しているのはどのような場面か。
- **保育者・教師の関わり**
 - ・どのような場面で声をかけているか。
 - ・どのように見守っているか。
- **環境構成**
 - ・教材や教具はどのようなものが準備されているか。
 - ・教材や教具はどのように配置されているか。

事前研修
(視点の共有)

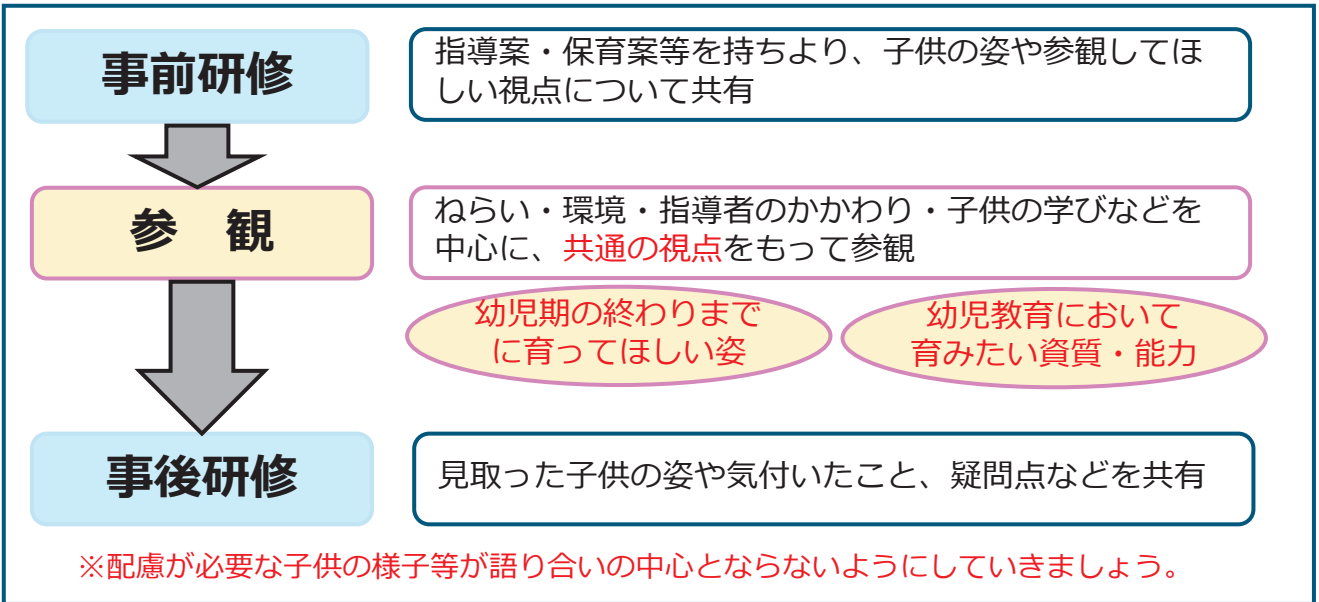


相互参観
(実際の保育・授業を見る)

事後研修
(気付きの語り合い)

例

【相互参観の流れ】
 小学校での参観では、教科の授業だけでなく、給食・掃除・帰りの会といった生活場면을参観するのもおすすめです。



参観後の事後研修で「ワークシート」を活用すると、相互の理解が深まります。

【例:ワークシート】

相互参観シート

子供が夢中になっている姿をとらえよう

参観日	令和 年 月 日 () : ~ :	場所	
ねらい		内容	

子供の姿

保育者・教師の関わり(支援・指導等)

環境構成(教材・教具・場の設定等)

幼保小のつながりが見える点

事後研修会で活用

ステップ3

共有しよう！ 期待する子供像

例

合同研修会 A



合同研修会等を開催し、園・所、小学校、教育委員会など子供たちに関わる大人が、子供たちの育ちや各施設の保育・教育を共通理解することが大切です。下記のような話題で対話を重ねると「架け橋期のカリキュラム」作成に向けて、地域としての「育みたい力」が見えてくるでしょう。

①子供のよさ

- ・強み
- ・誇れるところ

②課題

- ・弱み
- ・難しいと思うところ

③要因

- ・障壁
- ・課題と感ずることの理由

④【地域として】育みたい力

- ・育ってほしい子供の姿



園では、入学後、意欲的にいろいろなことに挑戦ができるよう「体験活動」を多く取り入れています。

園の方針

小学校では、「自分で考え行動すること」を大切にしています。友達と意見が合わない時も、子供たちどうしで話し合っ解決する力もついてきました。

小学校での姿

共有しよう！

年長児と1年生の交流会はこれからも継続できたらいいです。幼児と児童の双方に学びがある交流にするための方策を、幼保小で一緒に考えていきたいです。

地域としての取組



例

合同研修会 B

グループワークによって、互いの保育・教育の理解、保育や授業等の改善にもつながります。

①園（保育）と学校（授業）で似ているところをテーマとしてみましょう。

【生活面】
(例)

- ・着替え
- ・給食の配膳
- ・トイレの使い方
- ・用具の使い方、片付け方 など

【活動・学習面】
(例)

- ・季節ごとの自然観察や遊び
- ・植物の栽培
- ・生き物の観察・飼育
- ・廃材等を使用した工作
- ・運動遊び

子どもたちの活動の様子が見える写真等を持ち寄ると情報共有しやすいです。
※園・所：ドキュメンテーション、小学校：学習の振り返りやワークシート等

②付箋を使ってグループワークをしてみましょう。

- ①同種の活動・学習の中からグループごと、テーマを決める。
- ②テーマについて、各自付箋に記入する。

子供の姿
(黄色)

内面
(桃色)

環境構成・
準備物
(水色)

援助・
支援
(黄緑色)

- ③模造紙に貼り、グループ内で共有する。
- ④**幼児教育：遊びを通してどのような経験をしているか**
小学校教育：園での経験を生かした授業内容となっているか
の視点で話し合う。
- ⑤「学びをつなぐ」ために、今後の活動・学習における工夫点を話し合う。

③「学びをつなぐ」ための工夫について考えてみましょう。

遊びを通してどのような経験をしているか。 **視点** 園での経験を生かした授業内容となっているか。

5歳児
活動名

1年生
教科・活動名

工夫点

カリキュラムに反映させる

ステップ4

つなげよう！育みたい資質・能力

幼児教育も小学校教育も、子供たちに育みたい資質・能力は共通であり、また日々の教育活動に取り組む大人が子供たちの成長を願う思いも共通です。

子供たちの姿を真ん中に、学びと育ちがより豊かになっていくにはどうしたらよいかを協働して探り、学び合い、保育・教育の質を高めていくことが求められています。

0歳～18歳 共通
～育みたい資質・能力～

- ・実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- ・未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」
- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

0歳



架け橋期



18歳



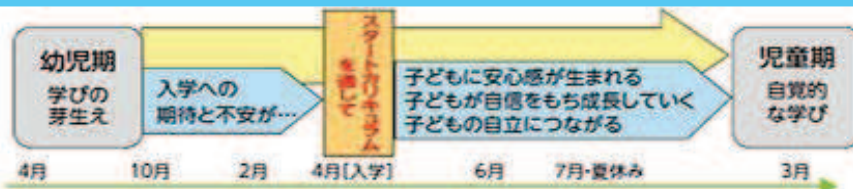
架け橋期の保育・教育

幼児教育のポイント

- ・子供の発達を踏まえ、環境構成や保育者の関わりを工夫し、保育計画を立案する。
- ・子供が自発的・能動的に環境と関わり、夢中になれるよう、遊びの充実を図る。
- ・子供自身の生活と結びつき「やってみたい」と思えるよう、環境構成を工夫する。

小学校教育のポイント

- ・児童の発達の特性を踏まえて、時間割や学習活動を工夫する。
- ・生活科を中心に、合科的・関連的な指導の充実を図る。
- ・安心して、自ら学びを広げていけるような学習環境を整える。



スタートカリキュラムを長いスパンで考える!... 入学から夏休みまでのカリキュラム

	時期	4月 1週～2週	4月 3週～4週	5月頃	6月頃	7月頃
安心感をもち、自己発揮できることをねらった学習	重点	安心感	信頼	自己発揮・主体性の発揮		
合科・関連的な指導による生活を中心とした学習	学習の比重	[Icon]			[Icon]	
教科等を中心とした学習		[Icon]			[Icon]	

学習を3類型に分類し、単元や学習活動を配列する。

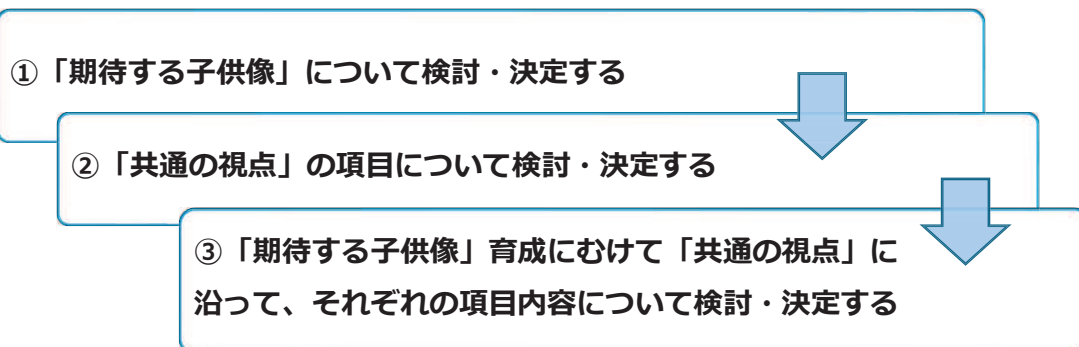
国立教育政策研究所「スタートカリキュラムスタートブック ～学びの芽生えから自覚的な学びへ～」より引用

架け橋期のカリキュラムの作成



関係者が合同の研究会等をもち、「期待する子供像」について協議し、それに向けての話し合いや取組を充実させていくと、その足跡を「架け橋期のカリキュラム」として表すことができます。

カリキュラム通りにするためのものではなく、子供や園・所、学校の実態に合わせて継続できるように評価・改善が必要でです。



例：架け橋期のカリキュラム様式

共通の視点		5 歳児・1 年生
①期待する子供像		架け橋期を通じて、どのような子供に育ててほしいか、どのような力を育みたいかを検討・決定する
②遊び・学びのプロセス/生活のプロセス		期待する子供像の育成に向けて、子供の姿や発達を踏まえ、園・所の活動や教科等の学びのプロセスをまとめる
③園・所、小学校で展開される遊びや生活・学習構成等		期待する子供像の育成に向けて、園の活動と小学校の授業や活動内容のつながり・在り方を示す
④ 指導上の配慮事項	先生の関わり・役割	遊びや生活・学びのプロセスを深めるため、保育者や教師の関わり、環境づくりのポイントを示す
	環境構成・環境づくり	
⑤子供の交流		期待する子供像の育成に向けて、互恵性のある交流となるように工夫する
⑥関係者の交流		持続可能な取組となるよう、相互参観、合同研修会、情報交換会等の計画を示す
⑦学校・地域との連携		期待する子供像について共有するとともに、連携、接続の意義や取組を発信する方法等を示す

4. 具体的な取組

(1) 「幼保小の架け橋プログラム」実践事例

☆交流の充実

- ・北杜市立高根東小学校
しらかば保育園・さくら分園、わかば保育園、清里聖ヨハネ保育園

☆相互参観・体験・実践事例の共有

- ・甲府市立貢川小学校
貢川進徳幼稚園・貢川幼稚園・菜の花保育園・和成こども園
- ・山中湖村教育委員会

☆合同研修会・協議会・情報交換会

- ・市川三郷町教育委員会
- ・富士吉田市教育委員会

☆架け橋期のカリキュラムの検討

- ・甲州市教育委員会
- ・富士河口湖町教育委員会



(2) 「幼保小の架け橋期のカリキュラム」実践事例

- ・甲州市教育委員会
- ・富士河口湖町教育委員会

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラムの検討

北杜市

北杜市立高根東小学校
(しらかば保育園・さくら分園、わかば保育園、清里聖ヨハネ保育園)

実践の概要 乳幼児期から学齢期、社会参加に至るまでの切れ目ない支援に向けて、教育・保健・福祉の連携の強化を図る。

実践の経過

1 保育園訪問

(1) 実施日程・場所

- 5月13日 清里聖ヨハネ保育園
- 5月29日 しらかば保育園さくら分園
- 5月31日 わかば保育園
- 6月9日 しらかば保育園

(2) 参加者

- ◆北杜市教育委員会（特別支援コーディネーター）
- ◆ネオボラ推進課
- ◆各保育園（園長、担任）
- ◆福祉課かざぐるま
- ◆高根東小学校（教頭）

(3) 内容

- ①自己紹介・年長児の情報共有
- ②保育参観（製作活動：折紙 集団活動：ゲーム）
- ③情報交換

(4) 成果と課題

- 就学した際に困り感を持つであろう児童や家庭について情報交換をすることができ、クラス替えや職員体制を考える際に有効であった。
- 活動のねらいを説明していただき、観察の視点をもって参観できるようにしていきたい。
- 保育園での活動をどのように小学校の学びにつなげていくのかを互いに理解し合う機会としていきたい。
- 保育園訪問には教頭が参観してきたが、担任が参観できるようにしていきたい。

2 就学时健診

(1) 実施時期・場所

10月 高根町農村改善センター

(2) 参加者

- ◆北杜市教育委員会（特別支援コーディネーター・指導主事）
- ◆ネオボラ推進課
- ◆各保育園（担任）
- ◆福祉課かざぐるま
- ◆高根東小学校（校長・教頭）

(3) 内容

- ① 内科健診、歯科健診、視力検査、聴力検査及び知能検査
- ② 検診結果の共有と情報交換

3 就学に向けた引き継ぎ会議

(1) 日時・場所

12月20日 高根東小学校 家庭科室

(2) 参加者

- ◆北杜市教育委員会（特別支援コーディネーター・指導主事）
- ◆ネオボラ推進課
- ◆高根東小学校（校長・教頭・特別支援コーディネーター・1年担任・6年担任）
- ◆福祉課かざぐるま
- ◆各保育園（担任）

(3) 内容

- ①保育園年長児、現1年生と6年生の様子について共有していく引き継ぎ会議を実施する。
- ②就学予定児童の心身の状況を把握し、就学にあたってそれぞれの関係機関で児童に対して必要な支援ができるよう情報交換を行う。

4 授業参観

- (1) 目的
1年生の授業を参観し小学校への理解を深めると共に、小学校生活の関心意欲を高める
- (2) 実施日程・場所
12月 9日 わかば保育園 国語「日付と曜日」
12月 18日 しらかば保育園 算数「文章問題～友達の作った問題を考えよう」
1月 22日 さくら分園 国語「動物の赤ちゃん」
- (3) 参加者
◆園長 ◆担任 ◆年長児 ◆教頭
- (4) 内容
①施設見学1 ②授業参観 ③施設見学2
- (5) 成果と課題
○昨年度より、小学校の授業の様子を年長児に参観してもらったり、施設の見学をしたりして、小学校生活に対するイメージを持てるようにしてきた。また、保育園の先生方にも卒園した子ども達の成長を見ていただくことができた。
●今後は参観する授業のねらいや工夫などを説明する機会を設け、小学校生活を意識した保育ができるようにしていきたい。

5 一日入学

- (1) 実施日程・場所
2月 7日 高根東小学校（プール・1年教室）
- (2) 参加者
◆入学予定者 ◆保護者 ◆1年児童 ◆教職員5人
- (3) 内容
①保護者説明会〔保護者〕
①1年生との交流会（高根東小学校の紹介・ゲーム）〔新入学児〕
②お絵かき〔新入学児〕
- (4) 成果と課題
○1年生との交流を図るとことにより、互いに新年度に向けての気持ちを高めることができた。
○就学予定者の活動の様子を観察することにより、支援が必要な児童を見極める機会となった。

6 その他

【5歳児相談】

- (1) 目的
保育園の年中児の保護者を対象に、対人関係や身体の発達に個人差が大きくなる時期に、日頃、気になっていることや心配なことを相談する中で、子どもの健やかな成長に向けた支援を図る
- (2) 場所
北杜市保健センター
- (3) 参加者
◆5歳児・保護者 ◆健康増進課 保健師 ◆北杜市教育委員会
◆ネオボラ推進課 ◆心理士
- (4) 内容
① 保護者と5歳児の問診
② 講話（歯科衛生士・栄養士・教育委員会）
③ 集団遊び

7 円滑な接続を促すために

(1) 入学時の1年教室の様子

- 発達の特徴があったり、集団生活に慣れていない子どもがいたり、個に応じた対応をしなければならぬことがあるため、スタート時の人手が足りない。
- 朝礼やミニ集会がある日などは、特に朝の時間が慌ただしく、子どもたちの様子を観察しながら関与することが難しい。
- 家庭から学校へと朝の切り換えが難しい子どもがおり不安感を感じている児童がいる。

↓

個に応じた対応・きめ細かな対応が取れるよう人手を増員する必要がある。

(2) 工夫

- ◆最高学年6年生の派遣（朝の支度・校歌・そうじ・体力テスト等の場面において）
- ◆子どもたちの実態に合わせて、45分授業ではなく、15～20分くらいの活動を行い、飽きないように工夫。
- ◆トイレ休憩を挟みながら、無理のないスケジュールで過ごす。
- ◆絵本の読み聞かせや手遊び歌などを取り入れる。
- ◆ユニバーサルデザインを意識した掲示物や写真などで子どもたちがわかりやすく、行動しやすい環境を作る。
- ◆年度当初は業前活動時の学級の時間などで、好きなこと（お絵かき、ぬりえ、折り紙等）を取り入れ、リラックスしたり、友だちを関わったりすることができる時間を作っていく。教師はその様子を見取り、その子に必要な支援に気が付けるようにしていく。（徐々に朝学習や読書に切り替えていく。）

(3) スタートカリキュラムについて

- 毎年、1年生の導入期にふさわしい活動や学習を工夫しながら取り入れてきていたが「スタートカリキュラム」と意識して実践をしてはいない。
 - 教育課程に載せているカリキュラムは平成30年度に作成した計画である。今後、国から出されている作成の留意点を踏まえ、児童の実態に合った計画となるよう、保育担当課や保育園と協議しながら作成していきたい。また、定期的に見直しを図るような機会を作っていく必要がある。
- 学年便りを定期的に発行。保護者に学校の様子を伝えながら、家庭とも連携しながら取り組んでいる。

(4) アプローチカリキュラムについて

- 北杜市ではアプローチカリキュラムを作成して取り組んでいる保育園はない。今後、幼児期の遊びや生活を通した一体的な学びと、小学校の教科等の学習を円滑に接続するための指導計画を作成していく必要がある。

実践の振り返り・まとめ(成果・課題・今後の予定等)

- 北杜市では就学予定児童の心身の状況を把握するため、それぞれの関係機関より児童に必要な支援ができるよう情報交換を行い、安全・安心な学校生活を送ることができるよう配慮している。
- 互いの教育内容や指導方法を伝え合い、幼児期の学びが小学校の学習にどのようにつながっているか互いに理解を深める機会を設けていきたい。
 - 話し合いを踏まえて「架け橋期(5歳児～小1の2年間)のカリキュラム」を協働して作成し、児童の実態に応じたカリキュラムとしていく必要がある。

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラムの検討

甲府市

甲府市立貢川小学校

実践の概要 貢川地区の4園（貢川進徳幼稚園・貢川幼稚園・菜の花保育園・和成こども園）
との相互参観と交流会について

【実践の経過】

コロナ禍では、新入児の聞き取り調査だけとなっていた幼保小連携の見直しを令和5年度の5月より始めた。

1. 新1年生の授業参観と懇談会

日時：令和6年6月11日 13：40～14：25 授業参観

14：50～15：30 懇談会

場所：貢川小学校 1年教室

参加者：貢川小学校 校長 第1学年担任3名

貢川進徳幼稚園 教諭 2名 貢川幼稚園 園長 教諭3名

和成こども園 園長 教諭3名 菜の花保育園 園長 教諭2名 【計14名】

内容：授業参観〔算数〕「のこりはいくつ ちがいはいくつ」

～算数ブロックを使ってのひき算の導入の授業を参観

懇談会 1年生の様子について 年間計画・交流会について

○小学校から授業の参観の観点として、自分の思いや考えを言葉で伝えること・人の話を最後までしっかり聞くこと・挨拶や返事を元気よくすることを事前に提示し、それらについて、意見交換を行うことができた。

○入学時からの様子を伝え、小学校の生活について知ってもらう機会となった。

○小学校の生活で困らないためにできるとよいと思うことを具体的に伝えた。

●小学校主導になりすぎず、お互いの意見や要望を話し合える機会になるよう、工夫していきたい。

2. 貢川小学校1年担任による4園への参観

日時：7月～8月（夏休み中）

場所：各園

参加者：貢川小第1学年担任2～3名

内容：年長クラスの参観・情報交換（貢川小へ入学する園児について）

○各園での年長児の活動の様子を参観し、保育についての理解が深まった。

○3学期にも聞き取り調査を実施しているが、実際に参観しているとより理解が図れる。

●夏休み中ということもあり、欠席している園児も比較的多いこともあり、参観の時期が適切か検討している。

3. 交流会

日時：令和6年10月29日・30日

場所：貢川小学校

参加者：貢川小学校1年生 65名 貢川進徳幼稚園 年長児 41名
貢川幼稚園 年長児 40名 和成こども園 年長児 20名
菜の花保育園 年長児 18名

【計119名】

内容：交流会

- 令和5年度には、2月に実施したがインフルエンザの流行などの懸念があるため、令和6年度には、10月に実施した。本年度は、11月に実施予定。
- できるだけ一人一人が話し、交流できるよう2園ごと2日間に分けて実施した。
- 6月の懇談会で、園より、普段の小学校の授業の様子を知りたいという要望を取り入れたり、1年生の学習として効果的のものになったりするよう内容を検討した。
- 一人一台端末のchromebookを活用して、給食や掃除、休み時間など小学校の生活の様子と各教科で学習をする内容について紹介した。

【交流会の様子】

令和5年度の様子



令和6年度の様子



【実践の振り返り・まとめ】

- 授業や保育の様子をお互いに参観することで、幼稚園や保育園では小学校の学習の様子や卒園生の様子を知る機会となった。また、小学校でも、各園での様子を知ることができ、スタートカリキュラム作成の参考になった。
- 交流会の実施により、1年生は次年度入学してくる新入児のためにと意欲的に活動に取り組むことができ、園児も小学校への期待を膨らませることができた。
- 懇談会は、4園と小学校が話し合うことができるよい機会である。今後はさらに有意義な会になるよう話し合いの視点等、内容の検討が必要である。また、幼保小連携は、1年生の担任が中心に進めることが多いため、担任が変わるとその継続が難しい。管理職のリーダーシップのもと、全職員で情報を共有し、取組を進めていく必要性を感じている。

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラムの検討

山中湖村

「共通理解でつなぐ保小のまなび」

【実践の概要】

山中湖村では、コロナ禍からの教育の回復・小学校統合を見据え、保小連携協議会を立ち上げた。その中で保育所と小学校の教職員が互いの現場を定期的に参観し合い、子どもたちの様子や指導の工夫を共有している。参観後の情報交換会で、生活習慣や学習支援、発達の見取りなどについて意見を交わしている。このような相互の学び合いを通して、子どもの育ちや学びに対する共通理解が深まり、実践的な連携が進んでいる。あわせて交流活動や研修も実施し、支援や指導の連続性を意識した取組が展開されている。こうした積み重ねにより、子どもが安心して小学校生活を始められる環境が整いつつある。

【実践の経過】

山中湖村では、令和5年6月に山中湖村保小連絡協議会を立ち上げた。小学校・保育所・福祉健康課、教育委員会等、各機関関係者が一同に参加する中で、保小連携の意義・今後の活動方針が確認され、今できることは何かを考えながらの連携がはじまった。本村は、各小学校区ごと、保育所からほぼ同じメンバーが小学校に入学する。地理的にも比較的近く、連携がしやすい環境がある。この環境をいかし、コロナ禍で出来なくなっていた交流活動を復活させたり、相互の参観を行う事など、現状でどんな連携が出来るかを話し合った。その結果として、本村の保小連携では、大きく4つの活動を行っていくこととなった。

- ①相互参観と情報交換会
- ②子供同士の交流活動
- ③外部機関とも連携し、支援を要する子供に関する切れ目のないサポート
- ④学びのつながりを考慮した架け橋期カリキュラムの作成

●相互参観と情報交換の取り組みについて

4月の連携協議会の折、各小学校区毎に話し合い、年間計画を立てて保育所年長児クラスと小学校1年生クラスの相互参観を計画し行っている。始まった当初は保育所が小学校入学までに何をすべきかに重点が置かれていたが、回数を重ね、研修を行うことで互いの指導の工夫などについて共通理解し、つながりを考える参観となってきた。参観の際には、参観される側の職員が指導者の意図を参観している先生方に伝えることで、どの様な意図で活動を行っているのかを理解しやすいよう工夫をしてきた。また、授業・保育をする側が「次はどのような場面を見たいですか。」と聞きながら共通の視点を持ちやすい参観に変わってきた。

●子ども同士の交流活動について

相互の共通理解を踏まえ、生活科のカリキュラムに位置づけられた年長児を迎えての学校紹介やゲーム、交通安全教室、運動会や学習発表会を活用した交流を通し、園児は小学校へのあこがれを持つようになり、1年生は、年長児にどう分かりやすく表現するか、何を教えるか等を考え、取り組む事で思いやりや表現する力を身につけてきた。

●支援を要する子供に関する切れ目のないサポートについて

乳幼児期から健診や保育所のアドバイスに関わって頂いている健康科学大学の鈴木真吾先生に、小学校入学後にも来校して頂き、これまでの経過と小学校での授業の様子を踏まえた、今後の支援についてのコンサルテーションを頂いている。また外部機関に要請し、保育所で気になる年長児についての観察、コンサルテーションを頂き、保、小、福祉健康課、教育委員会でその内容を共有している。

●学びのつながりを考慮した架け橋期カリキュラムの作成

保幼小連携の進め方や架け橋期カリキュラム等についてやまなし幼児教育センターから指導主事を迎え、「幼保小の架け橋プログラムに基づいた連携・接続」と題し、連携の必要性や架け橋期カリキュラムの作り方、実践事例等について学んだ。

●成果

- ・保育園と小学校が「顔の見える」良好な関係を築いている（教師も子供達も）
- ・保小間で指導・保育に対する共通理解が深まった
- ・保小連携に関する研修会と情報交換会等を通じて、学びつながりを少しずつ実感してきた
- ・個々の子供に関する情報交換・共通理解を行うことができた。保育所は、園での取り組みの有効性やつながりを確認でき、小学校としては、人的配置を含めた入学後の受け入れ体制を整えられ、保→小のスムーズな移行が出来てきている。

※現在1年生児童の不登校は両小学校とも一人もいない。

- ・保小連携への理解が双方職員の中に浸透しつつある。
- ・村内の関係機関が一体となり子供を見守る体制ができつつある。

●課題

- ・多忙化の中で、効率的で、且つ充実した連携を工夫していくこと。
- ・相互に学んだ内容をどうカリキュラムに生かしつないでいくか。
- ・取り組みの成果をいかに継続していくか。



【実践の振り返り・まとめ】

手さぐりの中で進めている保小連携だが、大きな成果がある一方、連携に係る負担軽減の工夫は必要。また、相互参観と情報交換会をより充実したものにするために、参観内容や、参観の際の視点を絞り、学んだことをカリキュラムに反映させ、今後の連携をさらに充実させていきたい。

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラムの検討

市川三郷町

「保幼小連携学習会」による幼保小の相互理解の取組

実践の概要 みさと学研究委員会主催による「保幼小連携学習会」を開催し、講演やワークショップを通じて、幼保小それぞれの相互理解を深める。

実践の経過

○学習会の開催にあたって

現在、小学校入学後に生活の変化に耐えきれず「小1プロブレム」へと発展することも珍しくない。そのため、幼保小の連携が必要となっている。市川三郷町では「みさと学（ふるさとキャリア教育）」を推進しており、その一環として町内の保育園（所）、認定こども園、小学校が共通の観点を持ち、子どもたちの育ちや学び、資質、能力を育むことが重要であると考え。そこで幼保小で連携して子どもたちを育てていけるよう、合同学習会を開いた。

○保幼小連携小部会の設置

「みさと学」には研究委員会が存在し、市川三郷町小中10校より1名ずつ研究委員が決められている。それとは別に小学校6校より1名ずつから成り立つ「みさと学保幼小連携小部会」が存在する。この小部会は幼保小連携を考えるために作られた部会であり、今回の学習会の中心を担っている。

○学習会の開催

令和6年度の「保幼小連携学習会」は11月に、市川三郷町生涯学習センターにて行われた。この学習会の参加者は保育園（所）6校、認定こども園2校、小学校6校を含む35名が参加した。講師は山梨県教育庁義務教育課の指導主事2名にお願いした。

学習会は講演とグループワークの二つから成り立ち、講演では「幼保小の架け橋プログラム」「スタートカリキュラムの見直しのポイント」「5歳児カリキュラムの見直しのポイント」についての学習を行った。またグループワークでは「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」をもとに、幼保小の先生方が入り交じり、子どもたちの写真を見ながら10の姿について考え、意見交換を行った。

交換された意見は全体に発表することで、会場の参加者がお互いに共有することができ、一緒に幼保小連携について学ぶことができた。

実践の振り返り・まとめ（成果・課題・今後の予定等）

○令和6年度の学習会の意義として次の4点が考えられる。

- ・町内のすべての保育園（所）、認定こども園、小学校が参加することができた点。
- ・幼保からは所長・園長・副園長等が、小学校からは校長・教頭等が参加した点。
- ・「幼保小の架け橋プログラム」の理解が進んだ点。
- ・幼保と小との相互理解が進んだ点。

○今後の課題について以下の3点が考えられる。

- ・幼保小のさらなる相互理解を進めること。
- ・「架け橋期のカリキュラム」の作成に向けて準備を進めること。
- ・カリキュラムの作成のみならず、小1プロブレムの解消に向けて、具体的な対応をしていくこと。

富士吉田市

富士吉田市幼保小連携連絡会議について

【実践の概要】富士吉田市では、平成23年3月に「富士吉田市幼保小連携連絡会議」を発足させた。以来、「幼児期から児童期にかけての子供たちの健やかな育成を目指す」ことを目的として活動を行ってきた。コロナ禍で一時、交流活動が停滞していたが、可能な範囲で交流活動を再開しつつあり、リスタートする気持ちで臨んでいる。

実践の経過（富士吉田市内の2幼稚園、6保育園、5認定こども園、7小学校、教育委員会2課が参加）



- ・幼保小連携連絡会議の担当者会議を年間4回実施している。うち1回は幼保小の連携に関する講師を招いた学習会を実施。残りの3回は情報共有や意見交換を行う。

成果以下は令和6年度、富士吉田市幼保小連携連絡会議の中で出された意見。

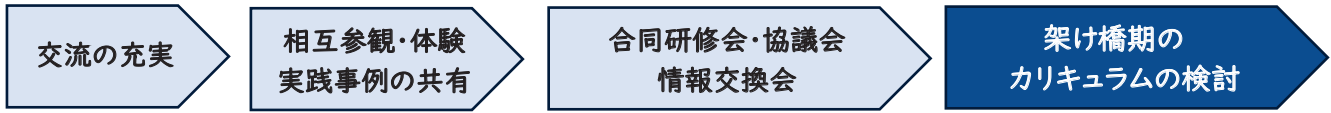
- ・園と学校が話し合う場がシンプルに役に立った。
- ・研修を通して、子供たちの良さを改めて実感できた。
- ・聞くだけでなく、自分で考えて書いてみるワークショップの活動が良かった。
- ・少人数でのグループ討議は、話しやすく、疑問を聞けてよい。
- ・今ある行事の中で連携活動ができるようにさぐった。
- ・小学校では、いろいろな園から集まる子供たちがスムーズにスタートができるように、スタートカリキュラムに具体的な内容がある。

課題

- ・幼保小の連携と教職員の働き方改革とのバランス
コロナ禍前に行われていた幼保小の交流活動が少なくなった。
コロナ禍後に復活させようとしても、「働き方改革」で入る余地を見つけられない。
- ・幼保小連携連絡会議の担当者会議のみの開催となった。
園・学校全体での連携活動になっていない場合もあるのではないかと。
担当者の負担が重くなってしまっている可能性がある。
- ・市内には幼保小連携連絡会議に入っていない認可外保育園がいくつかある。
認可外保育園に対象園児がいるのか。
認可外保育園に理解をしてもらえるのか。
構成団体が増えたら組織が肥大化して、動きがとりづらくなる。

**【実践の振り返り・まとめ】**

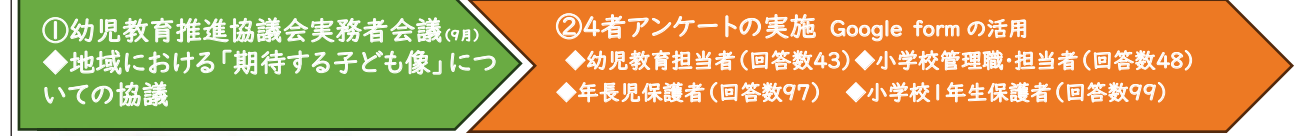
地域社会が一丸となることで、教育の質が向上し、子供たちの成長を支える基盤が整う。幼保小連携については、上記のような課題の解決をしなければならない。地域社会の皆さんと共に協力していきたい。



甲州市 甲州市教育委員会 「甲州市 架け橋期のカリキュラム」作成までの取組

【実践の概要】甲州市では、令和5年度甲州市幼児教育推進協議会を立ち上げ、3年計画で「幼保小の架け橋プログラム」実施に向け取組を進めてきた。3年計画に基づき、令和6年度には、「甲州市架け橋期のカリキュラム」の作成に取り組んだ。作成にあたっては、子どもに関わる大人の意見を可能な限り取り入れる工夫をした。カリキュラム作成は、目的ではない。このカリキュラムを共有することで、それぞれの幼児教育施設、小学校が特色を生かしながら、学びや生活の基盤を育む実践に結びつけていくスタート地点に立ったと捉えている。

【実践の経過】(甲州市内 幼児教育施設12 小学校13)

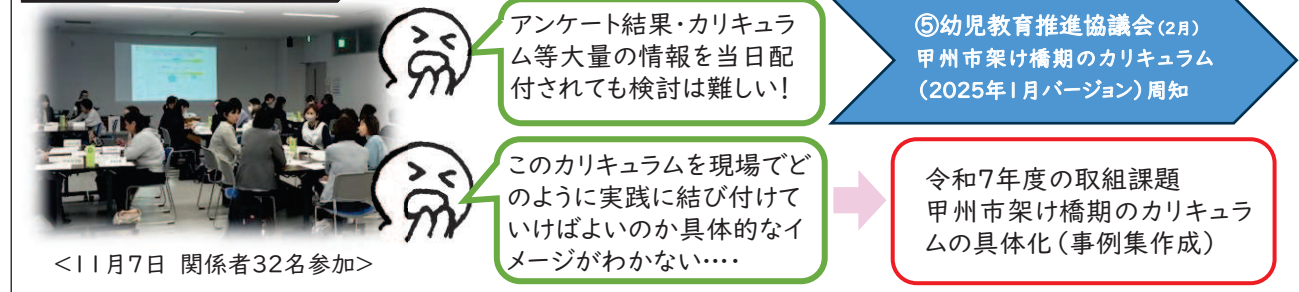


<9月5日 関係者28名参加>
9月実務者会議～協議の内容～
準備:6グループごとに自己紹介
STEP1:甲州市の子どもたちの今を見つめる。(素晴らしさ・課題)
STEP2:架け橋期に育てたい子どもの姿について STEP1の素晴らしさと課題を踏まえて考える。
STEP3:架け橋期に育てたい子どもの姿をめあてとし、めあて達成に向け、遊びや活動・必要な経験・学習の具体例を考える。
STEP4:グループ協議情報共有

<4者アンケート 年長児保護者・小学校1年生保護者回答結果より>
3 小学校入学後、お子さんに身に付けさせたいと思う力はどのような力ですか。(複数回答可)

年長児保護者		小学1年生保護者		
1	友達と進んで関り、話したり、遊んだり、学んだりする力	80人	友達と進んで関り、話したり、遊んだり、学んだりする力	83人
2	自分の気持ちや考えを言葉で伝えようとする力	79人	自分の気持ちや考えを言葉で伝えようとする力	83人
3	友達や家族、先生の話を注意して聞く力	71人	良いことと悪いことを判断し、決まりを守ろうとする力	74人
4	良いことと悪いことを判断し、決まりを守ろうとする力	70人	友達や家族、先生の話を注意して聞く力	71人
5	物事に進んで取り組む力	70人	物事に進んで取り組む力	71人
6	遊びやものづくりを工夫し、試すことを楽しむ力	52人	健康に過ごすための生活習慣作り	53人
7	数や図形、標識や文字に関心をもち、数えたり書いたりしながら理解する力	50人	遊びやものづくりを工夫し、試すことを楽しむ力	46人

※アンケート結果は、保護者におたよりとして配付・カリキュラムは甲州市 HP に掲載



<11月7日 関係者32名参加>

【実践の振り返り】 ○成果 ●課題
○山梨大学・大野歩教授のご指導・ご助言、やまなし幼児教育センターからの資料提供、関係者の協力、Google formの活用等により、多角的な意見を反映したカリキュラムの作成ができた。
●甲州市架け橋期のカリキュラムをどのように実践につなげていくか。具体的なイメージをもてるような活動に取り組んでいく必要がある。

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラムの検討

富士河口湖町

富士河口湖町教育委員会・町内小学校・保育所
「幼保小の円滑な接続のために町行政間の連携」

実践の概要： 1 幼保小連携に関わる会議への参加 2 幼保小情報交換会 3 保育所、認定こども園への視察 4 架け橋期のカリキュラムの作成 5 スタートカリキュラムの実践

実践の経過：

1 幼保小連携に関わる会議に参加

- ・やまなし幼児教育センターに町内の先生が勤務されていた。
- ・教育長と教育センター長が、幼保小連携接続研究会・幼児教育推進委員会にオブザーバーとして参加。

2 保幼小情報交換会

- ・町子育て支援課長に説明会の概要を説明して、協力を得る。
- ・河口湖畔教育協議会長に趣旨を説明して、幼児教育研究部会での開催を許可してもらう。
- ・小学校区ごとのグループで情報交換をして全体共有をした。その後学習会を実施。

3 保育所、認定こども園への視察

- ・年長児の活動の視察や縦割り班での野外活動のようすを視察。

4 架け橋期のカリキュラム・スタートカリキュラム・単元配列表の作成

- ・県のモデルを参考に担当者が原案を作成。
- ・校長会、保育所所長会でカリキュラムの説明と協力をお願い。管理職にも共通理解を得る。

5 スタートカリキュラムの実践

- ・昨年度作成した架け橋期のカリキュラムを参考に、各小学校で実施。
- ・河口小学校をモデル校としてスタートカリキュラムを実践し公開した。
- ・実践し見えてきたこと・改善点などをスタートカリキュラムに反映する。

まとめ：

1 成果

- ・保幼小情報交換会により、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のつながりをもつことができた。お互いのカリキュラムを学び合うことができた。
- ・情報交換会の学習会で保幼小の保育士、教諭等が共通の視点で動画を見ながら、遊びから何を学んでいるかを見取り、その見取りを共有することができた。
- ・視察により、保育所やこども園の環境構成（人・空間・物・時間等）の工夫が分かり、小学校との違いやつながりとして配慮すべき視点が見えてきた。

2 課題

- ・全体の情報交換会を負担感のないように、継続して実施できるように町の協力を得る。
- ・「架け橋期のカリキュラム」などを作成するにあたり、イニシアチブをとる担当が必要となるが、どこが（誰が）担当するか。また、実践してきたことを反映できるようにしていく担当も。
- ・「架け橋期のカリキュラム」が小学校、保育所共に浸透できていないところもある。

子どもに関わる大人が立場を超えて連携し、「架け橋期」(5歳児から1年生の2年間)にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指す。

		小学校1年生												
		0歳~	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
共通の視点		<p>●第3次甲州市教育振興基本計画(R5-R9)基本理念一人・自然・ふるさとを愛する甲州教育—学校教育の園・所・小学校の教育目標</p> <p>架け橋期全期にわたり、共通理解をもって、重点的に育みたい子ども像</p>												
①期待する子ども像		<p>言葉による伝え合い 自分の考えや気持ちを伝え、相手の話を聴くことができる子</p> <p>道徳性・規範意識の芽生え 自分のこと、他者のことも大切にできる思いやりのある子</p> <p>協同性 共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮し、やり遂げる子</p> <p>健康な心と体 目標をもち、さまざまな活動に挑戦して困難を乗り越えようとする子</p>												
②遊び・学びのプロセス		<p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」</p> <p>子ども主体の学び デジタル×リアル</p> <p>◆遊びを通して、多様な仕方で環境に関わり、思考を深らし、想像力を発揮し、環境に様々な意味や関わり方を発見する。</p> <p>◆学びがこどもの意識があり、授業を通して個別の学習活動や協働的な学習活動をし、学んでいく。</p>												
生活のプロセス		<p>5歳児のカリキュラム</p> <p>◆スタートカリキュラム</p> <p>○一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築けるようにする活動</p> <p>←幼児期の体験を取り上げる</p> <p>知ってる? やったことある? 知ってるよ! 子どもの経験を引き出す</p> <p>あかね 丁寧に聞き取る</p> <p>○生活科を中心とした社会的・関連的な指導による単元構成</p> <p>○日常生活とつながる学習活動等</p> <p>義務教育としての基礎的な資質・能力の育成</p> <p>5歳児のカリキュラム</p> <p>○明るく伸び伸び行動したり、連なって運動したりすることへの興味や意欲につながる遊びや生活</p> <p>○身近な人と親しみ、工夫したり、協力したり一緒に活動することを楽しめる遊びや生活</p> <p>○身近な環境に親しみ、発見を楽しんだり、考えたりすることにつながる遊びや生活</p> <p>○言葉に対する感覚を豊かにする遊びや生活</p> <p>○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しめる遊びや生活等</p> <p>健康 人間関係 表現 言葉 環境</p>												
③園、所、小学校で展開される遊びや生活・学習構成等		<p>5歳児のカリキュラム</p> <p>◆スタートカリキュラム</p> <p>○一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築けるようにする活動</p> <p>←幼児期の体験を取り上げる</p> <p>知ってる? やったことある? 知ってるよ! 子どもの経験を引き出す</p> <p>あかね 丁寧に聞き取る</p> <p>○生活科を中心とした社会的・関連的な指導による単元構成</p> <p>○日常生活とつながる学習活動等</p> <p>義務教育としての基礎的な資質・能力の育成</p> <p>健康 人間関係 表現 言葉 環境</p>												
④指導上の配慮事項		<p>★学びの見取りは、子どもの「つぶやき」「プロセス(過程)」「関わり」「経験」を重視。</p> <p>★子どもの主体性を尊重する関わりを大切にす。「すぐに答えを出さずに見守る」「対話を重視する」「子どもを信じてくみかき入らないで待つ」「子どもの思考を深める問いかけ」</p> <p>・幼児にとつての学びの場となる環境を構成する。</p> <p>・環境の下で幼児と適切な関わりをする。(活動の理解者、共同作業者、共鳴する者、憧れを形成するモデル、遊びや課題解決の援助者)</p> <p>・幼児が遊びや生活の中で見通しや主体性をもって活動し、達成感を味わえるように支援する。</p>												
⑤子どもの交流		<p>・5歳児と1年生の交流会</p> <p>・5歳児と他学年との交流会</p> <p>・小学校の児童会行事への参加等</p>												
⑥関係者の交流(保育者、教諭、管理職、行政等)		<p>知ることで新たな視点をもち、意識することで変化を生む～情報交換の場を大切にしたい交流～</p> <p>→「個別の情報交換」から「教育者・保護者の共有の場」への質の向上・意見交換の場と時間の確保</p> <p>・保育者や保護者(先生)の関わり、環境構成、幼児・児童の育ちや発達等を学びあう</p> <p>・合同研究会(甲州市幼児教育推進協議会<年2回>実務者会議<年2回>共通の視点をもとにカリキュラム、環境、交流等について検討する)</p> <p>・要録による伝達等</p>												
⑦家庭や地域との連携		<p>・子どもの成長を共有し、肯定的に見守れるようにする。</p> <p>・保護者が安心感をもてるよう支援する。</p> <p>・社会全体で子どもの育ちや学びを支えるよう、関係者が連携し取組を進める。</p> <p>・生活のリズムを整え、基本的な生活習慣が身に付くよう連携して取り組む。</p> <p>等</p>												
★「甲州市架け橋期のカリキュラム」を共有し、自園・所、自校のカリキュラムを見直し、改善し、実践につなげる。														

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の視点

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり、生命尊重
- 数・量・図形・文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

https://www.mext.go.jp/content/1422303_08.ppt

富士河口湖町 架け橋期のカリキュラム (令和8年度版)

		小学校1年生												
		0歳～	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
共通の視点														
①期待する子供像		<p style="text-align: center;">興味・関心 関わり合い 伝え合い</p> <p>●安心して自分を発揮し、時間を忘れて「夢中」になって探究したり、工夫したりして学ぶ(遊ぶ)子供 ●みんなが楽しみな関わり、友達との個性を認め合える子供 ●経験や考えを言葉で伝えたり、相手の話を注意深く聞いたり、言葉による伝え合いを楽しむ子供</p>												
②遊び・学びのプロセス		<p>◆遊びを通して、多様な仕方で環境に関わり、思考を巡らし、想像力を発揮し、環境に様々な意味や関わり方を発見する。</p> <p>なんだろう・不思議だな(学びの立ち上がり) やってみよう、試してみよう(体験知の蓄え) ねえねえ、これって…(体験知の発露や協働性) こんなこともあるんじゃない? (体験知の生活や学習への応用)</p> <p>自信: ほいくえん・ようちえんはまかせて! 学校生活への思いを明確化する時期 期待: がっこうのしのみ! 自信をもつて学校生活に臨む時期 期待と不安: 学校に活動を開始する時期 楽しみにする時期</p> <p>挑戦: なんでもやるぞ! 学校に活動を開始する時期 楽しみにする時期</p> <p>成長の目標: 1年間を通して成長の確證とこれからの成長への期待</p>												
生活のプロセス		<p style="text-align: center;">5歳児のカリキュラム</p> <p>健康 人間関係 表現 言葉 環境</p> <p>○時間を区切らず、納得いくまで遊びこめる遊びや生活 ○明るく伸び伸び行動したり、進んで運動したりすることへの興味や意欲につながる遊びや生活 ○基本的な生活習慣、十分に体を動かす遊び、人とのかかわり合い ○身近な人と親しみ、工夫したり、協力したりして一緒に活動することを楽しめる遊びや生活 ○友達と関わる遊び、継続できる遊び ○身近な環境に親しみ、発見を楽しむこと ○言葉や数量への興味が遊びの必要感の中で自然に育まれる環境 ○言葉に対する感覚を豊かにする遊びや生活 ○話し合い、読み聞かせ ○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しめる遊びや生活 ○音、色、手触り、動き等を素材とした遊び ○5歳児(年長)としての有用感を育む遊びや生活 ○異年齢児との関わり遊び、プロジェクト型活動、役割 ○小学生の姿(ダイナミックな動きや集中する姿)に触れ、憧れや意欲につながる遊びや生活</p>												
③園・所、小学校で展開される遊びや生活・学習構成等		<p style="text-align: center;">1年生のカリキュラム</p> <p>国語 算数 生活科 図工 音楽 体育 道徳</p> <p>○一人一人が安心感を持ち、新しい人間関係を築けるよう活動(手遊び、歌、読み聞かせ等)を取り入れる。また、園で親しんだ時間設定で活動を仕組む。 ○弾力的な時間割の設定 ○園での取組を活かしながら自分たちの生活をつくる</p> <p>○生活科を中心とした総合的・関連的な指導による単元構成 ○児童の経験からの気づきを学習につなげる ○義務教育としての基礎的な資質・能力の育成を旨とした教育 ○自覚的な教科の学び</p>												
④指導上の配慮事項	先生の関わり・役割	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の遊びを通じた総合的な指導を意識しながら子供一人一人の個性(資質・能力)を見取る。原簿それぞれの育ちや学びを引き出す。(原簿に任せる) ・児童自身が動き出す余力をつくる(待つ)姿勢 ・幼児期の遊びを通じた総合的な指導を意識しながら子供一人一人の個性(資質・能力)を見取る。原簿それぞれの育ちや学びを引き出す。(原簿に任せる) ・児童自身が動き出す余力をつくる(待つ)姿勢 												
	指導上の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・安心を生み、成長・自立を支える。(一緒に活動を楽しむ、温かく見守る、子供の目線と話を聞く) ・幼児教育の内容や支援等を、小学校にも適宜取り入れる。 ・児童の思いに寄り添い、揺らぎや緊張を成長に必要な調整過程として前向きに受け止める。 ・主体的・対話的に深い学びの表現に向けた授業改善をする。 ・生活科を核にし、探究的に学び、協働する。(課題の設定、問いかけ、共感等) 												
	環境の構成・環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育現場における環境の工夫を取り入れ、指導の充実を図る。 ・授業で扱う学習教材だけでなく、児童が関わる環境(掲示物、教材の置き場所)等も学びに影響する環境として、教材棚を広げ、環境づくりを行う。 ・継続的に探究できる環境(折り紙、廃材コーナー・絵本コーナー等)を整える。 ・個別な対応を必要とする児童へ配慮した環境を整える。 ・クールダウンスペース等「安心の基地」を設置する。 ・弾力的な時間設定を行う。 												
⑤子供の交流		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校へ散歩、小学校の校庭での遊び、小学生と遊ぶ ・5歳児と1年生との交流会 ◆言葉だけでなく、同じ動きやリズムを共有する「身体的共鳴」が生まれる活動を取り入れる。 ※互恵性のある交流になるよう、それぞれの目的を明確にし取り組む。 												
⑥関係者の交流(保護者、教諭、管理職、行政等)		<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観や授業参観を日常的に実施する(先生の関わり、環境構成、幼児・児童の育ちや発達等を見取る) ・合同の研究会(4月、6月) 共通の視点をもつカリキュラム、環境、交流等について検討する、育ちや学びの学び合い ・日常的な情報交換 												
⑦家庭や地域との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・子供の成長を共有し、肯定的に見守れるようにする。 ・保護者が安心感をもてるよう支援する。 ・生活のリズムを整え、基本的な生活習慣が身に付くよう連携して取り組む。 ・地域全体で子供の育ちや学びを支えるよう、関係者が連携し取組を進める。 ・「架け橋期のプログラム」の理念、内容について関係者で共有する。 												



やまなし幼児教育センター



〒400-8510

甲府市武田4-4-37 (山梨大学J号館内)

TEL : 055-220-8143

E-mail : y-ycenter@pref.yamanashi.lg.jp